

No	最新ページ	意見	意見内容	委員	担当者	対応	対応内容、考え方
1	0	全体、目次	※目次、表番号、グラフ番号、段落の位置、フォント、西暦・和暦などは最終的に整理します			未	最後にまとめて精査必要
2	0	全体	基本計画案に市民の環境意識のようなものが反映されていない(少なくとも明示的に)のが残念です。施策を評価したり、目標を設定したりする上で有効な場面も少なくないと思います。アンケートによる市民の意識調査などは定期的を実施するようになっているのでしょうか。もしなっていないのであれば、計画の進捗管理・評価などの項目のもとに、市民の意識・評価を測る仕組みを盛り込んではどうでしょうか(もしなっているのであれば、それをかきこむ)。	遠藤	岡本	済	指標に市民アンケートも含める
3	0	全体	グラフやデータによって、年度が西暦のものと同層のものがあります。特に和暦だけのグラフはわかりにくいので、西暦に統一した方がわかりやすいです。	遠藤	協会ほか	未	最終的に見直す必要あり
4	0	全体	キツネ タヌキにもーホンドギツネ ホンドタヌキなど種名は統一した方がいいと思います。(メール本文)	今住	佐藤	済	生物多様性と同様、表記は統一
5	0	全体	侵略的外来種(外来生物?)については、 特定外来種(外来生物?)も含む(部分改訂)でやわこしいかと思ひます。 改定に伴い、「要注意外来種」は使わなくなっているようです。(生態系被害防止外来種になった?) 産業上問題があるので、農水省からクレームがあった? ハリエンジュ(ニセアカシア)などが蜂蜜の蜜源として大事。問題ありとは思いますが・・・(余談) 侵略的外来種(外来生物?)を連絡するとすると、セイタカアワダチソウやハリエンジュも連絡しなければならぬことになります。それともいいかもしれませんが、特定外来種に限定してはどうでしょうか?(メール本文)	今住	佐藤	済	生物多様性と同様、要注意外来種という言葉は省いて文章を修正 施策III-1-(2)の表記を修正
6	0	① 国・県の環境基本計画の考え方、の反映	現案の内容は、従来からの環境保全型の観点での記載となっており、国・県の新計画に盛り込まれている新たな視点が十分に反映されていないように感じられる。 新計画に盛り込まれている新たな視点としては、well-beingの実現(生活の質の向上など)、市場・経済との関係づくりや共創、自然資本・環境価値の創出・向上などがある。環境の保護・保全の観点だけでは目標が達成できない、現状の市場経済の価値観では持続可能な社会の実現が不可能だという考え方が背景にある。今後10年間にわたる市の環境施策の方針を定める計画であるため、なるべく新たな視点を反映するようにしていただきたい。	榎本	中塚	済	以下のページを修正しました。 P1 第1章 第1節 計画策定の背景 P41 第4章 第2節 施策推進の基本的な視点 【取組記載】 ①well-beingの実現(生活の質の向上など) 44, 45, 64, 68 ②市場・経済との関係づくりや共創 44, 47, 49, 57 ③自然資本・環境価値の創出・向上 54, 57, 64
7	0	② 上位計画との関連の整理	・総合計画では「豊かで美しい環境を育むまち」とされている。本計画では「健全で恵み豊かな環境を共に育むまち」となっており、少し表現が異なっているが、問題はないか。	榎本	木村	修正なし	総合計画との文言不一致については、本計画では、第3次計画で掲げていたものを踏襲する(環境都市宣言からの引用) こととしておりますので、文章は修正しない。
8	0	② 上位計画との関連の整理	・総合計画で示されている「都市づくりの基本的な考え方」である①都市構成に基づいた都市づくり、②人口減少等を見据えた都市づくり、③地域の特性を活かした拠点づくりは、環境基本計画にも大きく関連すると思われる。	榎本	木村	済	No.20と同様
9	0	② 上位計画との関連の整理	・「都市構成に基づいた都市づくり」に示された以下の方針に沿って、環境分野の施策をすべき。「魅力ある市街地」「市街地周辺緑地の保全や育成」「山林など豊かな緑や水辺、農地など、自然環境と田園環境の保全に努める」というキーワードが挙げられているので、環境基本計画でも漏れなく取り上げつつ、具体的な施策を書き込んでいただきたい。	榎本	木村	済	P52 III自然共生社会の実現 1 生物多様性の保全・再生(1)生態系の保全と再生に内容を記載しました。
10	0	③ 緑地の保全・創出	・都市部に保全・創出された緑地は、景観および生物多様性の保全において重要であるだけでなく、暑熱の緩和に重要な役割を果たしている。	榎本	佐藤	済	P54 文言一部参考になりました
11	0	③ 緑地の保全・創出	・しかし、生物多様性戦略策定委員会における振り返りでも明らかになったとおり、市街地における緑地は減少を続けており、保護樹およびその周辺の開発計画があるとおり、今後も開発等による消失が予測される。	榎本	佐藤	済	P54 文言一部参考になりました
12	0	③ 緑地の保全・創出	・現行計画では、「自然共生社会の実現」に「街なかの緑の保全と創出」が位置づけられ、施策として「公園・緑地の管理・整備」が掲げられているが、改定案では省略されている。緑の基本計画についても何も触れられていない(用語集にだけ残っている)。	榎本	佐藤	済	P54 取組の推進を補充・連携する計画などにみどりの基本計画を追加
13	0	③ 緑地の保全・創出	・緑の基本計画に掲載されている方針や重点施策を取り上げておく必要がある。 きずきの森の取組は、緑の基本計画においても重点施策として掲載されており、市の複数計画の共通プロジェクトとして進めることができる。具体的には、公園緑地の担当部局で管理に取り組むのであれば、環境の担当部局としては生物多様性調査やOECM認定申請、環境学習プログラムなどに取り組むとよい。	榎本	佐藤	済	p.54~56に市街地の緑地保全・緑化について記載、取組及び指標追加
14	0	③ 緑地の保全・創出	・生物多様性戦略の改定案では、市街地の緑地確保に関して「市街地の緑化推進」しか記載されていないが、「緑地の保全」や適切な管理による「機能維持」について記載すべきである。	榎本	佐藤	済	戦略、基本計画両方に記載 計画 p.54~56
15	0	③ 緑地の保全・創出	・特別緑地保全地区に対しては、緑地管理のための国の交付金(機能維持増進事業)も創設されており、ぜひ活用されたい。	榎本	佐藤	済	P56特別緑地保全地区についても記載
16	0	③ 緑地の保全・創出	緑地保全の意義を記載するにあたっての参考 ☑都市における緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針 ☑ https://www.mlit.go.jp/toshi/kankyo/content/001853287.pdf 例示する施策の参考 ☑都市緑地法の改正の概要 ☑緑地の機能維持増進事業、国による買入れ支援など支援策も掲載 ☑ https://www.mlit.go.jp/toshi/kankyo/content/001841316.pdf ☑県民まちなみ緑化事業 ☑ https://web.pref.hyogo.lg.jp/ks18/wd20_000000005.html	榎本	佐藤	済	参考になりました
17	0	④ 野生鳥獣の適正管理	・前計画にはニホンジカへ分布拡大や生息密度増加への対策が記載されていたが、改定案には課題として記載があるにも関わらず、施策としては記載されていない。ここ数年はツキノワグマの分布拡大も問題となっている。	榎本	岡本	済	55ページに追記しました。生物多様性戦略も同一表現に修正しました。
18	0	④ 野生鳥獣の適正管理	・生物多様性保全における重要課題のひとつであるとともに、防災(特に六甲山地)、農林業や、生活環境の安全確保(シカの増加によるマダニ被害、クマ被害)にも影響を与えることであるため、計画に明記しておく必要がある。	榎本	岡本	済	58ページに防災・減災機能の向上について記載
19	0	④ 野生鳥獣の適正管理	・県の計画では「野生鳥獣の適正管理」と掲載されているので、表現を統一とし、県や周辺市町と連携して取り組むと記載する。	榎本	岡本	済	42ページ、55ページほか、表現を「野生鳥獣の適正管理」に統一しました。また、取組にも県や近隣市町と連携する旨追記しました。
20	0	④ 野生鳥獣の適正管理	・生物多様性戦略においても同様に記載しながら、施策として捕獲強化、狩猟者の育成、生息状況の調査(県の森林動物研究センターや周辺市町と協力)、被害防除(集落柵の設置など)に取り組むことを記載する。	榎本	岡本	済	55ページに追記しました。生物多様性戦略も同一表現に修正しました。
21	0	⑤ 森林の保全管理、森林資源の活用	・CO2の吸収・固定、自然生態系の保全、生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)など環境分野において森林果たす役割は重要である。しかし、施策の中で森林保全に関する記述は極めて少ない。六甲山地における森林保全(防災・減災機能の向上)、北部地域における里山保全、再生可能な資源としての森林資源の活用、都市における森林資源の活用による脱炭素の推進など、取り組むべきことを記載しておく必要がある。	榎本	中塚	済	P54 第4章 第3節 III 自然共生社会の実現 2 持続可能な資源利用と生物多様性理解の促進 【現状・課題】 P55 (1) 自然資源の持続的な利活用
22	0	⑤ 森林の保全管理、森林資源の活用	・具体的施策としては、森林環境譲与税を活用した森林の保全管理(私有林の支援)、県民緑地による災害に強いもりづくりなど、兵庫県産木材活用の助成など、財源が確保可能なものもある。県の施策を上手く利用しながら、前向きに記載いただきたい。	榎本	中塚	済	P55 (1) 自然資源の持続的な利活用 市民・事業者・市の取組
23	0	⑥ 生物多様性の保全に関する内容	・生物多様性戦略の策定委員会でも十分に採っていない内容が記載されている状況であり、策定委員会での今後の議論を反映させる必要がある。指標についても整合が必要。	榎本	戦略の委員会	済	生物多様性戦略の指標と整合をとる
24	0	⑥ 生物多様性の保全に関する内容	・活動に取り組む団体数や活動参加者数ではなく、保護区域+OECMの面積、保全活動の面積・箇所数など結果に直結する目標値の設定が必要と思われる。	榎本	戦略の委員会	済	生物多様性戦略の指標と整合をとる

No	最新ページ	意見	意見内容	委員	担当者	対応	対応内容、考え方
25	2		計画の位置づけを示す図において、本計画の下位に位置づけられる計画や戦略などをすべて示していただきたい(県の環境基本計画を参照)。「など」として記載されている中に何があるのかわからないため。主要な関係計画(農業振興計画や緑の基本計画など)についてもなるべく名称を挙げておいた方がよい。	栃本	木村	済	全て記載、第〇次を追記、街路樹管理計画は削除しています。
26	13		きずきの森が加わる前の古いデータ。緑の基本計画でも都市公園の位置図は掲載していないので、無理に地図を掲載する必要はないのでは。	栃本	岡本	済	地図を省いた
27	22	キツネ・タヌキ	キツネ タヌキにもホンダギツネ ホンドタヌキなど種名は統一した方がいいと思います。(メール本文の内容?)	今住	佐藤	済	生物多様性と同様、標記は統一
28	22	ヒメダゴガエル	タゴガエルでは? ヒメは2022年の新種	今住	佐藤	済	確認して文章を修正
29	22	魚類に追記?	カワバタモロコ(1B Aランク)	今住	佐藤	済	確認して文章を修正
30	22	、2023年に近隣市との境界付近で発見された	2025年の市内確認は?	今住	佐藤	済	令和7年(2025年)に市内でも発見されたことを記載
31	34	「PFOSピーフォス及びPFOAピーフォア」が指針値(50ng/L)を超過しましたが、	原因が特定できたかどうかを明記	今住	佐藤	済	原因は特定されていないが、最明寺川にて追加調査を行ったことを追記
32	35	その他	一番多いその他が何か不明	今住	佐藤	済	阪神水道企業団がその他に含まれていたのを、分けた表に修正
33	38		環境分野で最も重要な天然記念物が抜けている。	栃本	岡本	済	天然記念物を追加しました
34	39		自然環境循環系:自然環境? 生態系自然環境:個別情報の列記となってしまっているが、市域の生態系の特性をまとめた表現としてはどうか。「自然植生:コジエーカナメモチ群集などの照葉樹林帯」という表記はおかしい。南北の特性:動物に関しても「北部山地を中心に多様な動物が生息」と記載があるが、「南北の特性」の内容として通じているか不明であり、また、山地だけでなく丘陵地や田園環境に多様な動物が生息しているのでは。「六甲山」「里山」「まちな山」というような視点が必要。	栃本	協会	済	文章を修正
35	40	外来種	特定外来種?	今住	佐藤	済	特定外来生物に修正
36	40		宝塚市総合計画にも触れてはどうか。	栃本	木村	済	文章を修正
37	41		検討にあたっては、上述のとおり、国・県の環境基本計画や市総合計画の考え方を参照いただきたい。	栃本	中塚	済	P41 第4章 第2節 施策推進の基本的な視点
38	42		県の環境基本計画も参考とする。市場・経済のことにどこかで触れる必要がある。	栃本	中塚	済	P41 第4章 第2節 施策推進の基本的な視点
39	43		CO2排出量の数値は排出係数などに大きく影響を受ける。市レベルの施策に対して達成度を把握できるような指標の設定ができればよい。	栃本	エネルギー担当	修正なし	係数などに影響されない「エネルギー消費量」という指標を入れている
40	43~		具体的施策を図や写真で示すなどして、取組の具体例が伝わるように工夫いただければ。	栃本	各担当	未	どこどこに写真を配置する
41	44	脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルへの転換【市民の取組】項目4	「ECO講座や市民環境フォーラムなどの環境学習・イベントに積極的に参加します」について 市民向けの環境講座やフォーラムについては、これまで継続的に参加されてきた市民の存在があり、宝塚市の環境施策を支えてきた重要な基盤であると感じています。一方で、気候変動対策は、エネルギー利用や住まい、消費行動、子育てなど、現代世代の生活や意思決定と密接に関わる分野であることを踏まえると、今後はより幅広い世代、とりわけ子育て世代や働く世代に関わりやすい仕組みづくりが重要になると考えます。 参加者は年配の方の割合が多い印象ですが、この偏りは市民の関心の低さというよりも、開催内容やテーマ設定、講師、開催時間帯、参加形式などの設計による影響が大きい可能性があり、こうした点について見直しを検討する余地があるかもしれません。例えば、子育て世代が関心を持ちやすいテーマ設定や、子連れでの参加を前提とした開催方法、対話型・参加型のプログラムの転換などが考えられます。(12月の環境フォーラムは長虫ハンターの牧田さんの登壇が子育て世代の関心に向く好事例だったと思います) 以上を踏まえた場合のp44の記載の調整案 市の取組:環境学習の場について、ECO講座や環境フォーラムといったこれまでの取り組みを継承しつつ、子育て世代や働く世代を含む多様な市民が参加しやすいテーマ設定、開催方法、参加形態の見直しを行います。 市民の取組:上記をはじめとする環境学習の場に積極的に参加し、世代や立場を超えた学びや対話を通じて環境配慮行動の実践と地域への波及を図ります。	伊藤	エネルギー担当	済	76ページv6innで取り組む環境づくりの(1)環境学習・教育の推進のところで記載する
42	44		費市でも低炭素建築物の認定を所管されている(https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/1060685/1060715/1061613/1061615/kaihatu/1003096.html)ので、認定の促進(件数を増やす)に関する記述を市民・市の取組に記載したらと思います。	澤木	エネルギー担当	済	市民の取組、市の取組に記載
43	44		市民の取組の5つめは、モーダルシフト(公共交通への転換)が第一なので、以下のような記述が望まれます。 ○公共交通機関の利用、自転車、徒歩による移動を優先し、自動車を利用する場合も低公害車や電気自動車の利用を心がけます。 (※燃料電池自動車は普及してないので、市民向けには適切ではないのでは)	澤木	エネルギー担当	済	文章を修正
44	45		栃本委員の意見(サーキュラーエコノミー、地域資源の活用等)に関しては、2018年に環境省が提唱した「地域循環共生圏」(https://chikijunkan.env.go.jp/)について、よく理解され、宝塚市の環境政策として何ができるかを考えて、適切な箇所に項目を追加されると良いと思います。	澤木	中塚	済	45ページに記載
45	46	再エネの利活用の推進【市の取組】項目2	「公共施設の整備にあたっては、再生可能エネルギー設備の導入を検討します」について 宝塚市はゼロカーボンシティ宣言および気候非常事態宣言を发出しており、これは気候変動対策を「検討段階から実行段階へ移行する」という強い意思表明であると受け止めています。その観点からすると、再生可能エネルギー利活用の推進において、行政が主体的にコントロール可能な公共施設について「導入を検討する」という表現に留めている点は、宣言との整合性にやや課題があるように感じます。 公共施設は率先導入の象徴となり得る分野であり、市民や事業者へのメッセージ性も非常に高いことから、「公共施設への再生可能エネルギー導入を原則として進める」あるいは「技術的・構造的制約がある場合を除き、導入を確定する」といった、より踏み込んだ表現への修正を検討いただければ幸いです。計画文言の強度を高めることが、宣言の実効性と市民からの信頼につながるかと考えます。	伊藤	エネルギー担当	済	※第2次宝塚市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の56ページの記述を参考にして下記のように修正。 「公共施設の整備にあたっては、再生可能エネルギー設備の導入を図ります」
46	51		生物多様性戦略策定委員会での今後のとりまとめを踏まえて更新する。国・県の戦略の方針も参照する。	栃本	戦略の委員会?	済	生物多様性戦略との整合をとる
47	54	侵略的外来	特定外来種? 侵略的外来種はそこら中にある	今住	佐藤	済	特定外来生物に修正
48	64		騒音の環境基準を達成できていない状況に対し、記載の施策だけでは目標達成は難しいのでは。	栃本	公害担当	済	市としての可能な対応は限られてしまう。地道に行っていく。市民の取組に追記。
49	71	自転車に乗り降りする「歩きスマホ」や「ながらスマホ」などの迷惑行為や危険行為はしません。	罰則規定ができた	今住	佐藤	済	善切符導入の事実を表記
50	74		環境保全のプラットフォームを立ち上げるのであれば、取組の実施や検証についてもプラットフォームを絡めていくべきではないか。P73でプラットフォームの目的・役割・運営などについて明確に示しておく。プラットフォーム=情報サイトという想定かもしれないが、HPの製作だけで終わらないような工夫が必要。	栃本	岡本	済	文章を修正。 環境マイスターによる啓発の実施を十分に図ることができなかったことも追記